

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月23日(2005.6.23)

【公開番号】特開2004-107525(P2004-107525A)

【公開日】平成16年4月8日(2004.4.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-014

【出願番号】特願2002-273473(P2002-273473)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 77/06

C 0 8 G 69/26

C 0 8 J 5/00

C 0 8 K 3/00

//(C 0 8 L 77/06

C 0 8 L 27:12 )

【F I】

C 0 8 L 77/06

C 0 8 G 69/26

C 0 8 J 5/00 C F G

C 0 8 K 3/00

C 0 8 L 77/06

C 0 8 L 27:12

【手続補正書】

【提出日】平成16年9月28日(2004.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

プラスチックを定常的に摩擦が生じる条件下で使用した場合、一般に、摩擦熱に起因する温度上昇によって、ある限界を越えると、溶融が起これると同時に著しい摩耗を起これ、定常の摩擦運動が続けられなくなる。上記した従来のポリアミドを使用した場合にも、過酷な条件下で使用すると材料全体の温度が上昇し、最終的には摩耗面全体が溶融することさえある。さらに、従来のポリアミドは、その吸水性のために、寸法変化、物性低下等が生じるという問題点もあり、さらなる性能の向上が望まれている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

上記のジカルボン酸単位(a)は、50モル%以下であれば、テレフタル酸単位以外の他のジカルボン酸単位を含有していてもよい。該他のジカルボン酸単位としては、例えば、マロン酸、ジメチルマロン酸、コハク酸、グルタル酸、アジピン酸、2-メチルアジピン酸、トリメチルアジピン酸、ピメリン酸、2,2-ジメチルグルタル酸、2, 2-ジエチルコハク酸、アゼライン酸、セバシン酸、スベリン酸等の脂肪族ジカルボン酸；1,3-シクロペンタンジカルボン酸、1,4-シクロヘキサンジカルボン酸等の脂環式ジカルボン酸；イソフタル酸、2,6-ナフタレンジカルボン酸、2,7-ナフタレンジカルボ

ン酸、1, 4-ナフタレンジカルボン酸、1, 4-フェニレンジオキシジ酢酸、1, 3-フェニレンジオキシジ酢酸、ジフェン酸、4, 4'-オキシジ安息香酸、ジフェニルメタン-4, 4'-ジカルボン酸、ジフェニルスルホン-4, 4'-ジカルボン酸、4, 4'-ビフェニルジカルボン酸等の芳香族ジカルボン酸から誘導される単位を挙げることができる。これらの中でも、芳香族ジカルボン酸から誘導される単位が好ましい。これらの他のジカルボン酸単位の含有率は、40モル%以下であることが好ましく、25モル%以下であることがより好ましく、10モル%以下であることがさらに好ましい。また、トリメリット酸、トリメシン酸、ピロメリット酸などの多価カルボン酸から誘導される単位を溶融成形が可能な範囲内で含んでもよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

上記の脂肪族アルキレンジアミン単位の中でも、摺動性、耐熱性、成形性、低吸水性、軽量性により優れたポリアミド組成物を得る観点から、1, 6-ヘキサンジアミン、1, 8-オクタンジアミン、2-メチル-1, 8-オクタンジアミン、1, 9-ノナンジアミン、1, 10-デカンジアミン、1, 11-ウンデカンジアミン、1, 12-ドデカンジアミンから誘導される単位が好ましく、1, 9-ノナンジアミン単位および/または2-メチル-1, 8-オクタンジアミン単位がより好ましい。1, 9-ノナンジアミン単位および2-メチル-1, 8-オクタンジアミン単位を併用する場合には、1, 9-ノナンジアミン単位：2-メチル-1, 8-オクタンジアミン単位のモル比は、99：1～20：80であることが好ましく、99：1～60：40であることがより好ましく、99：1～80：20であることがさらに好ましい。